

市長記者会見記録

日時：2025年1月6日（月）14時00分～14時16分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：令和7年の年頭にあって

<内容>

【議題】

《令和7年の年頭にあって》

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。

初めに、令和7年の年頭に当たりまして、福田市長から御挨拶させていただきます。それでは、市長、よろしくお願ひします。

【市長】 改めまして、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

年頭に当たってということでありませうけれども、今年は、私が市長になってから、総合計画をつくってちょうど10年というタイミングになって、第3期計画の最終年度になりますので、位置づけたものを最後しっかりとやっていきたいという思いがありますし、これまでも申してきたように、地域包括ケアシステムの話はこの10年で非常に大切だと言ってきた一つのターゲットイヤーでもありますので、今どこまでできているのか、あるいはどこに課題があるのか、さらに高めていくためにはどうしたことが必要なのかということをしつかり検証して、そのことを多くの関係団体、市民の皆さんと共有しながら、さらに進めてまいりたいと思っています。

それから、川崎の産業面でも大きな転換期というのはこれまでも申し上げてきたところですが、2025年も大きな転換の年になると思っていますし、今ある拠点をどうやってつないでいくのかということも、これからの川崎の産業の発展のためには大きな要素になるのではないかと考えていますので、今あるものをどうやってうまくつないでいくか、生かしていくかがとても大切な年になるのではないかと考えております。

今年は、太陽光の設置義務もいよいよ本格的に始まるということもありますし、脱炭素への動きはさらに加速していくと。中小企業においても、大企業のみならず、スコープ3への対応がサプライチェーン全体を通して求められていくことになると思いますので、早めにもそういったところに市内の中小企業の皆さんに、情報共有ですとか、あるいは支援を行いながら、引き続き力強い産業都市づくりを進めていきたいと思っています。

また、今年は今月から特別市のことについてもいろんな動きが出てきますし、国の政治も不安定な部分があるからこそ、こういったところにしっかりと政策、あるいは制度の大きな変更を求めていく、むしろチャンスにしていかなければならないと思っていますので、一瞬一瞬を大切に、機会を捉えて、危機的な状況にあるものを地方からしっかりと発信していきたいと思っています。

私から以上です。

【司会】 それでは、市政一般も含めまして質疑応答に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしく申し上げます。

【東京（幹事社）】 東京新聞です。今年もよろしくお願いいいたします。年頭に当たってのお言葉をいただきましたけれども、午前中、職員に対する年頭挨拶の中で、「世界観と最適化」というキーワードでお話をされていらっしゃいましたけれども、10年後の川崎がどうあるべきかという点について職員同士で議論を深めていってほしいというお話をされましたけれども、市長御自身で10年後の川崎、今現在描かれている世界観、具体的にこういうふうな部分というのをお話しいただくことはできますでしょうか。

【市長】 いろんな側面があるんですけれども、例えば、これまでコミュニティー施策を一生懸命やってきましたけれども、とはいえなかなか、例えば自治会の加入率が上がっていかないとか、一方で地ケアをもっと進めていかなきゃいけないということなので、そういった意味では、顔の見える小さなコミュニティーをどうやってうまくつくっていくかと。都市部の中の適度な距離感もありながらも、大いなる田舎のような地域をつくっていくことは大切な要素だと思いますし、あるいは産業の面でいけば、少なくとも日本の中では最もイノベティブなエリアと言われるような都市にしなければならないと思っていますので、いろんな見方があると思いますが、もう少し細かく砕いていったような、例えば地域の交通体系ってどうあるべきなのかとか、あるいは先ほど言った、最もイノベティブなエリアにしていくためには、教育とはどうあるべきなのかといったことをしっかりと構想していかなきゃいけないと思っています。それが単なる私からの話ということよりも、組織としてしっかりと議論して、こういうものをみんな目指そうということを市民の皆さんに共有して、それぞれのステークホルダーの皆さんに協力していただくという、そういう形をしていかなければならないと思っています。

《戦後80年を迎える所感等について》

【共同（幹事社）】 共同通信です。本年もよろしくお願いいいたします。今年は、さきの第2次世界大戦終戦から80年の節目の年となります。市長から80年を迎えたことに対する所感と、当事者が高齢になる中、戦争の記憶の継承について思うことがあればお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 特に私、今質問でおっしゃっていただいたように、若い人たちへの継承ということに、この数年、非常に思いを致しております。「平和のつどい」というものについても、なるべく若い人たちに聞いてもらおうというような取組をこの数年進めています。それは、戦争を知っている世代がいなくなっているということへの危機感でもあります。

一方で、平和の対義語が戦争という、こういう関係ではなく、非平和なものというのは、平和観ではありませんけれども、貧困ですとか環境問題ですとか、あるいは差別ですとか、こういったこと、非平和的なことは、我が国、我が市においてもあると思いますので、そういったものを一つでも克服していくことを自治体としてしっかりやっていくことが大事だ

と思っています。

とにかく、願っているだけで平和が訪れるわけではありませんので、やはり市民の皆さんと、いろんな意味で思いを同じくして平和な世界をつくり上げていくということ、分断されている世界中ですから、その分断が日本においてもそんなことにならないようにしていくというのは、基礎自治体としてやることはたくさんあるのではないかと考えております。

《二十歳を祝うつどいについて》

【東京（幹事社）】 すみません、話が変わりまして、来週、「二十歳を祝うつどい」があって、市長のお嬢さんも二十歳になられたかと。おめでとうございます。かねてから「二十歳を祝うつどい」で二十歳の方々に川崎市歌を歌ってほしいということもおっしゃっていらっしやいましたし、特別な思いで臨まれる集いになるのかなとは思うんですけども、2年前には逮捕者も出たり、また、メディアで川崎の「二十歳を祝うつどい」は荒れているという取り上げられ方をしたことで、その後の会見で怒っていらっしやったりもしましたけれども、今回の集いに対する思いを改めて伺えますでしょうか。

【市長】 この年だから思い入れがとかということではないです。年度をまたいで、市制100周年というタイミングで二十歳を迎えられるというのには、これまでの川崎の発展の歴史というか、自分たちの住んできたまちはどういうものなんだということと、それから彼らが大人としてどういうまちをつくり上げていきたいのかということ、やはり思いをしてもらおうような、そういった年に、あるいは成人になって、成人というか、二十歳になってもらえればいいなと思っていまして、個人的なものはありませんけれども、市長としては特に例年変わりなく、みんなで成長をお祝いしたいと考えております。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

各社、お願いいたします。

《令和7年度与党税制改正大綱について》

【朝日】 朝日新聞でございます。今年もよろしくお願いたします。昨年12月20日に来年度の与党の税制改正大綱がまとまりまして、所得税額から年収の最低ラインを103万円から123万円に引き上げる内容が盛り込まれたのですが、今後、国民民主党との合意が課題になってくると思うんですけども、現時点での123万円での川崎市の影響額の試算をしていただければ教えていただきたいのと、とりあえず与党で123万円という数字を出していたことについての市の評価を教えていただけるとうれしいのですが。

【市長】 ありがとうございます。このことについてはこれまでも、市民の所得の向上につながるでありますとか、労働市場、不足しているところに好材料だと思っているので歓迎しているというのがコメントでありますけれども、影響額については5.3億円の減収を見込んでおります。ちなみに、令和7年度の予算には影響ありませんけれども、令和8年度以降に適用されるということで影響が出てくるということでもあります。現在のところ、これについての財源措置はないと聞いておりますので、今後どうなっていくのかは見極めていきたいとは思っています。今後も3党合意についていろいろ協議が行われていくと聞いている

ので、その辺りをしっかりと注視していきたいと思っております。

【朝日】 ありがとうございます。

《令和7年の年頭にあって》

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、今年もよろしく願いいたします。先ほど午前中の部分で、最後にあえてコミュニケーションを大切にしようというお話をおっしゃられていたと思うんですけれども、改めて、どうしてあの場でコミュニケーションを大切にしよう。何か弊害みたいなものを感じられてきたんでしょうか。

【市長】 ありがとうございます。それは、コロナ禍で極端に職員とのコミュニケーションがなかなか難しくなってきたというのは、仕事場だけじゃないコミュニケーションというのを、隙間時間もそうですし、というのがすごく難しかったことがある意味ずっと尾を引いていると思っています。コミュニケーション不足というのが、気づいていたのに伝えてなかったとか、昔だったらもう少し、こういうの気になるよねとか言っていたような、ある意味たわいもないところのコミュニケーションから生まれていたヒヤリ・ハットに至らなかった事例が、こういった細かなミスなどにもつながっていると思っています。

それこそ先ほどの話でも申し上げましたけれども、朝、職員組合の委員長さんたちとお話ししていても、やっぱりそこには課題ありますよねということは共通認識でして、そこをもっとやらないと、管理職と、あるいは職員とのコミュニケーションだとか、あるいは横と横だとかというのも非常に大事なんじゃないかなと思っています。単純にミスをなくすためのコミュニケーションだけじゃなくて、これまでもストレスチェックみたいなことをしていても、人間関係が一番職場のところでモチベーションが上がったり下がったりするところですので、いい職場はコミュニケーションがすごくいいということですし、働きやすい環境のところにいい仕事生まれるという自然の摂理だと思いますので、そこは本当にやっていかないとなと。

先ほど申し上げましたけれども、ミスをなくすためのコミュニケーションではなくて、ディスカッション、コミュニケーションすることによってもっといい仕事を生み出していくような、2倍、3倍においしいような、そういったコミュニケーションをやはり幹部職員から、あるいは管理職から心がけてほしいという、そういった意味でのメッセージでございました。

【司会】 ほかに御質問はよろしいでしょうか。

《特別市について》

【朝日】 朝日新聞でございます。今月から特別市、動き出しがありますということだったんですけれども、もう少し具体的に教えていただけるとうれしいんですが。

【市長】 一番最初は1月9日木曜日、今週でありますけれども、経済同友会との意見交換が行われまして、神戸の久元市長、会長をはじめ、私ほか指定都市市長会のメンバーも数名参加する予定でありまして、まずは経済界との動きがあります。それから、1月中に、総務省で始まりました専門部会で指定都市市長会からのヒアリングがありまして、それって日

時確定してオープンになっているんですけど。後で確認して報告させていただきますが、それについても私が指定都市を代表して意見を述べることになっておりますので、1月から始まるなど思っております。

【朝日】 ありがとうございます。

【司会】 ほかにはよろしいですか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当